

風となれ。

Be the Wind.

ひかりとなれ。

Be the Light.



こころ豊かにあるために、
輝くために。

2019-2020 年度
西日本区理事 戸所 岩雄

新型コロナ (covid-19) 惨禍で生活環境や事業環境が大きく影響を受けておられるクラブ・メンバーの皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

STAY ワイズ KEEP ワイズダム

ワイズ運動存続の危機にあるとの判断から
次の項目を第一弾の緊急メッセージとします

互いが互いを慰撫する為に

- 1) 次期前期の西日本区費 (7500円/人) を免除する
 - 2) コロナ基金を創設し疲弊したクラブ・メンバーに支援の手を差し伸べる
- | | |
|----|-------------------------|
| 目標 | 2000万円 |
| 期限 | 2020年 7月31日 (緊急を要しますので) |

クラブ会費・部費の減免や休会扱いするメンバーの会費の補填に当てること等でクラブやメンバーがワイズの活動を変わずに継続出来る為の支援とする。及び、関係するYMCAの支援・関係する団体の支援等に活用することを目的に。

告知

今月号を以って理事通信は最終号 (総括誌を6月末に配信予定) となります。
一年間のご愛読とご協力頂いたことに感謝申し上げます。

予定

今期第四回役員会	6月12日午後6時00分～7時00分 (Zoom 会議)
第二回準備役員会	6月12日午後7時30分～8時30分 (Zoom 会議)
2019-2020 年度 西日本区役員引き継ぎ式	6月13日午後3時～ Zoom 配信 (後日 YouTube 配信)

『新型コロナ基金の設立』について

今期はじめより各部各クラブにて多くのメンバーにお会いさせていただきました。多くの会議や事業・交流の場を訪ねる度にワイズ運動の奥深さとワイズメンの皆様の心の暖かさに感慨を覚えました。活発に活動しているクラブや人々も決して評価されることを期待している訳でなく心からその意義を信じ他者を思う気持ちに純粹に取り組んでおられる。又、一見地味に見える活動に従事しておられる方々も真摯に奉仕の心を大切にされ永年にわたり継続されていること等多くの真実に出会えたことは幸せでした。

これらの運動を新型コロナ (covid-19) の惨禍で絶やすことがあってはならない。又、縁あってワイズ運動に関わって来て頂いたメンバーがワイズを離れざるを得ない状況に陥ることを何とか阻止するためにみんなの心を合わせましょう。その為の基金を作ることになりました。

ワイズメンがワイズ活動とワイズメンを支援し維持する為の基金です。

今回の事態はメンバー一人〇〇円程度と遍く献金を依頼が出来る状況ではありません（メンバーの多くが被災の当事者である）が、よろしく願いいたします。ワイズメンの中にはそう大きなダメージの無い方もおられるかと思えます。

ワイズを思う気持ちを再配分する仕組みとして寄付して頂きたいと思えます。

今回の惨禍はワイズ存亡の危機であるとのワイズメンの思いに託して

目標額 2000万円

緊急を要するとの思いで 期日7月31日 としました

新型コロナ基金 振込先

ゆうちょ銀行

ワイズメンズクラブ 西日本区事務所
(ワイズメンズクラブニシニホンクジムシヨ)

ゆうちょ銀行から送金される場合

記号：14190 番号：46386691

ゆうちょ銀行以外の金融機関から
送金される場合

【店名】四一八（読み ヨンイチハチ）

【店番】418 普通預金 【口座番号】4638669

注意点

振込依頼人（お名前）について、下記をご確認いただき必ずご記載ください

- 個人名で送金される場合：お名前の頭に「C」を、クラブ名をお名前のあとに必ず記載してください
例：「C 個人名 ナガハマ」
- クラブ名で送金される場合：クラブ名の頭に「CC」を必ず記載してください
例：「CC ヒコネシャトー」

新型コロナ（COVID-19）対策特別委員会について

特別委員会設立の経緯

- 5月9日（土） 拡大常任役員会にて新型コロナ (covid-19) 対策特別委員会の設置承認
- 5月12日（火） 西日本区指針0512配信記載にてメンバーに周知
- 5月16日（土） 新型コロナ (covid-19) 対策特別委員会・準備委員会開催
- 5月22日（金） 第1回新型コロナ (covid-19) 対策特別委員会開催
- 5月30日（土） 第2回新型コロナ (covid-19) 対策特別委員会開催

《構成と任務》

（A）組織とネットワーク

- 1) 委員（事務局）－ 現・次期キャビネット+現・次期監事
拡大委員 － 現・次期主任+部長
- 2) ネットワーク
 - ・ 区、部、クラブとのネットワークの要を部長が担って頂く
 - ・ 国際、地域 － 大野勉ワイズ ・YMCA関連 － 光永ワイズ

（B）状況の把握

- 1) 情報の収集 アンケート調査の実施
- 2) 日本YMCA同盟からの情報
- 3) 東日本区との連携
- 4) 国際、地域の情報

（C）疲弊したワイズ（部・クラブ・メンバー）への支援の具体策の検討

早急に検討し、第二弾メッセージとしてメンバーに伝える

（D）YMCAへの支援の具体策の検討

- 1) YMCAが行う地域や困窮者への支援の協力
- 2) 経済的に疲弊しているYMCAの経営支援

YMCAへの地元企業(CSRとして)や篤志家の寄付行為を行い易くするため(税額控除等)の仕組みを作る。もともと世界全体の1/3のYMCAは経済的基盤が弱い各地域のワイズメンのスキル(経営的アドバイザー等)を結集して財政立て直しの委員会を作りコロナ対策だけでなく、継続的支援の手立てをこれを機に作る。

(背景：YMCAが財政的脆弱な体質であっても旧態然として寄付体質に阿るところがあり、これを機に経営体質の改善に取り組むことの提唱と協力を行う。)

※ 早急に「ワイズ・YMCAパートナーシップ委員会（連絡協議会）」を専門家チームとして作り協議を始めることが必要。

アンケート回答

西日本区82クラブのうち、5月末締切りで51クラブから回答いただきました。(回答率62%)
ご協力に感謝申し上げますとともに、さらに未回答のクラブからも回答を頂戴したいと存じます。
集計の概要について記載します。

1) 現在の悩み、困りごと

- ・メンバー減少 11/51クラブ
- ・退会者/退会希望者 12/51クラブで19名
- ・集合例会できない 41/51クラブ
- ・イベント開催不能 40/51クラブ
- ・モチベーション減衰 13/51クラブ
- ・YMCA 27/51クラブ

具体的記載：事業活動の休止、経営不振、財政困窮、留学生困窮、生活必需品を提供など

- ・他団体 12/51クラブ

具体的団体：作業所、少年サッカー、赤十字病院、学園、養護施設、社協、
社会福祉法人、障がい者施設、支援 NPO、児童養護施設、フリースクールなど

2) 最大の困りごと、悩み

集合例会できない、イベント開催不能、オンライン会議できないが多かったが、
これらは緊急事態解除で徐々に解決できそうです。

3) 解決手段

1位 お金 17クラブ 2位 情報 11クラブ

4) 実施活動の概要

YMCA関係：支援金寄付、マスク・消毒液寄贈、留学生支援、

医療従事者家族の学童保育

各種団体：ひとり親家庭サポート、マスク寄贈、支援金寄付

5) 自由記述

クラブ運営に関するもの、YMCA 支援に関するもの、西日本区への提言・要望など、様々なご意見、ご要望を頂戴しました。

強調月間 6月は「評価と引継ぎ」

新型コロナウイルス感染拡大の影響により2020年3月以降、次期会長・主査研修会、第3回役員会・第1回準備役員会、第4回役員会・第2回準備役員会、区代議員会、第23回区大会等がすべて中止となり、書面などの代替手段が可能なものは一定代わりの手立てをして参りましたが、そのため、評価はいまだ定まらないものと考え、今後引継ぎにも精一杯努めたいと存じます。

2019-2020年度 西日本区理事 戸所 岩雄（彦根シャトー）

今月の聖句 2020年6月 コリントの信徒への手紙1 12章 29節

皆が使徒であろうか。皆が預言者であろうか。
皆が教師であろうか。皆が奇跡を行う者であろうか。

西日本区チャプレン

日本福音ルーテル広島教会 立野泰博

聖書の小窓「奇跡」

ある本の中に「奇跡」という物語があります。

一人の求道者が、ある遠い国には奇跡を行う人がいると聞き、その人を訪ねました。海を渡り、山を越え、はるばる小さな国へやってきて聞きました。「あなたの国にいるあの有名な人は、いったいどんな奇跡を働かれたのですか」と。

すると人々は答えました。「ああ、この国には奇跡ならいくらでもありますよ。奇跡もいろんなものがあります。あなたの国では、神がだれかある人の望みを行われると、それを奇跡と呼ぶのですが、この国では、人が神のみ旨を行ったとき、それを奇跡とよぶのです」と。

私たちが考える奇跡って何でしょうか。私が望むことを神様が聞いてくださり、それが行われたことをいうことでしょうか。私が望むように病気がなおったとか、私が望むように人が生き返ったとか。そのような奇跡は少ないものです。しかし、本当は人が神様のみ旨を行ったとき、それが奇跡というのなら私たちにもできるような気がします。そのように生きている毎日が奇跡そのものなのだと。

ワイズライフも「奇跡」がいっぱいですよ。

国際協会加盟認証状を伝達【高島ワイズメンズクラブ】



～びわこ部に・第7番目のワイズメンズクラブが誕生しました～

新型コロナウイルス感染拡大防止の現況を踏まえ、びわこ部では、緊急事態宣言解除後の5月23日（土）。長浜市内で、「高島ワイズメンズクラブ」<栗本新会長はじめ、新メンバー12名>に、国際協会加盟認証状が戸所西日本区理事より伝達されました。

当日は、戸所西日本区理事・東びわこ部長・矢守長浜クラブ会長（代表ホストクラブ）、栗本高島クラブ新会長、以下12名だけの出席者に限定。

新クラブである高島クラブ側も、会長・書記のみ参加という“3密を避け”“1時間以内”に抑えることで、粛々と開催いたしました。

しかしながら、この新クラブ設立は、びわこ部の念願であった“ネックレス構想”の実現であり、「びわこ部ワイズ起こし運動・基本構想」の1つを達成した成果のため、極めて感慨深いチャーターとなりました。

今回、晴れやかな披露・式典は開催できませんでしたが、チャーター記念誌を作成しましたので、西日本区各部・各クラブの皆様あて後日送付させていただきます。

びわこ部ワイズ起こし運動推進リーダー
松岡 義隆（長浜クラブ）



2019-2020 年度西日本区年次代議員会開催報告

西日本区書記 河口裕亮

■代議員会返信報告と会の成立確認

今回の年次代議員会は5月中旬に代議員方々へ資料を発送し、5月中に返信はがきでのご回答を募る方式にて開催させて頂きました。

定数99名のうち、71名より返信はがきでのご回答を頂きました。

定数の3分の2以上の出席をいただいたとみなし、この代議員会は成立するものと致します。

■個別議案採決報告

第1号議案 2019-2020 年度西日本区一般年次報告及び行政中間監査報告を承認する件

賛成71名 反対0名 過半数以上の賛成を頂き、この議案は可決されました。

第2号議案 2018-2019 年度西日本区会計決算報告及び監査報告を承認する件

賛成70名 反対0名 保留1名 過半数以上の賛成を頂き、この議案は可決されました。

第3号議案 2019-2020 年度西日本区会計中間決算報告及び中間監査報告を承認する件

賛成71名 反対0名 過半数以上の賛成を頂き、この議案は可決されました。

第4号議案 2020-2021 年度西日本区理事を選任する件

賛成71名 反対0名 過半数以上の賛成を頂き、この議案は可決されました。

第5号議案 2020-2021 年度西日本区次期理事を選任する件

賛成71名 反対0名 過半数以上の賛成を頂き、この議案は可決されました。

第6号議案 2020-2021 年度西日本区次々期理事候補者及び監事を指名する件

及び西日本区定款第8条「次期理事等の指名」第2項の改定の件

賛成70名 反対1名 過半数以上の賛成を頂き、この議案は可決されました。

第7号議案 2020-2021 年度西日本区役員等を承認する件

賛成71名 反対0名 過半数以上の賛成を頂き、この議案は可決されました。

第8号議案 2020-2021 年度西日本区理事方針を承認する件

及び名称「連絡主事」を「担当主事」へ変更する件

賛成71名 反対0名 過半数以上の賛成を頂き、この議案は可決されました。

第9号議案 2020-2021 年度西日本区会計予算案を承認する件

賛成71名 反対0名 過半数以上の賛成を頂き、この議案は可決されました。

第10号議案 第24回西日本区大会ホストクラブ及び開催地を承認する件

賛成71名 反対0名 過半数以上の賛成を頂き、この議案は可決されました。

代議員皆様方の温かいご協力に心から感謝を申し上げます。

以上ご報告申し上げます。

6 月・水無月

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言時の Y M C A の現状報告

全国のワイズメンズクラブの皆様には、困難の中でお過ごしのことと拝察いたします。皆様の心身の健康を心よりお祈りしております。世界と全国の Y M C A では、困難の中にあっても課題に向き合い、「はなれていても繋がっている」私たちの強みを、これからどう生かしていくのかを考え続けています。

これまで培ってきた、パートナーシップの先に希望の灯を掲げて進められれば幸いです。

1. 世界の Y M C A の3分の2は存続の危機、しかし、コミュニティの再生を優先

「今、世界の多くの Y M C A が会館を閉鎖し、スタッフを解雇させなければいけない現状があります。何万人というスタッフが解雇され、8 割の収入が途絶えているところもあり、最も大きな影響を受けているのは北米、次にアフリカ、ラテンアメリカ、中東です。

Y M C A の存続維持の課題はありますが、それよりもいま、Y M C A 関係者が心配しているのは、それぞれのコミュニティのことであると動画等で発信しています。

2. 世界恐慌、二度の世界大戦、多くの危機を乗り越えてきたレジリエント Y M C A

世界 Y M C A 同盟は、「私たちは、レジリエント(resilient:どんな衝撃にも耐えられる柔軟性を持つ、回復力がある、などの意味) Y M C A です。このような時にお互いに助け合い、支えあい、ミッションの炎を燃やしコミュニティのために働くことによって道が開かれます。」と呼びかけています。北米 Y M C A は、コミュニティと共に歩む Y M C A を示しながら、大恐慌、二つの世界大戦、多くの災害と幾度も困難にあいながら、その時の地域社会の課題に伴走し、レジリエント Y M C A として歩んできたというメッセージが示されています。

これらのメッセージを受けて私たち日本の Y M C A も、一番に Y M C A の存続維持を掲げるのではなく、地域社会、コミュニティの崩壊を防ぐ働きのために存続する Y M C A としてポジティブネットの灯を高く掲げて歩みたいと震い立たされます。世界が共通の危機にある中、日本国内も緊急事態となり、Y M C A でも閉館や事業休止となっています。その中でも全国の Y M C A で医療や行政などで働く社会的なインフラを支える保育園や、学童、放課後デイ、高齢者事業など要支援者のサポートが今も続けられています。全国の 238 の施設・拠点のうち 181 か所(76%)が今も活動を継続中です。保育自粛要請を受けながら定員 16,000 名に対して、その 50%から 30%の子どもたちに今も保育を継続し地域社会に灯を高く掲げています。

世界 Y M C A 同盟からユースに関する緊急声明

<https://www.ymca.int/ymca-calls-for-urgent-safety-net-policies-for-young-people-worldwide/>

3. コロナの影響を受けて日本の Y M C A の半数が 2019 年度マイナス決算

4月中旬に、日本 Y M C A 同盟より「日本 Y M C A のコロナ影響、緊急ヒアリング」をしました。この3月の決算期に、多少の地域差はありますが、全国の学校教育機関の休校要請となり、一部の Y M C A を除き、通常の語学、ウェルネス(健康教育、水泳、体操、サッカー等)、専門学校等の Y M C A の大型の会館の運営が、休止となりました。さらに春休みに行う春期講習及びスキーキャンプなどの宿泊を

伴う事業は、すべての YMCA で実施できませんでした。それにより収入予算の約 1.2%近い収入3億4千万円の減収となりました。その結果、2019 年度の決算予想での収支差は、全体でマイナス1%となります。集計できた全国の 26YMCA 43 法人の内、半分を超える 23 法人が赤字決算となりました。収入比マイナス 4%からマイナス 16%を超えた YMCA が 11YMCA 11 法人ありました(新施設開設などのコロナの影響ではない2YMCA を除く)。

4. 全国に広がる緊急事態宣言の継続で、2ヶ月から3ヶ月の休館に大きな影響

4 月にはこの休校解除に向けて準備を進めてきましたが、首都圏の緊急事態宣言が出て、直後に全国に拡大され、3月の減収を大幅に超える、4 月の収入だけで、収入比で2%に近い6億円の減少となり、その時点での 2020 年度の決算見込みは、約 14 億 7 千万円の減収、収入比マイナス5%となりました。さらに5月も緊急事態継続となり、4月の減収と同等の減収が見込まれると大幅な悪化となり、また、夏のキャンプ等中止。専門学校日本語学科など後期入学のめどが立たなくなると予算収入の10%から20%近くの 30 億円から 60 億円の減収となる恐れも出てきます。月当たりの減収は、約 25%減収ですので、この状態がさらに 30%程度まで悪化する可能性もあります。

4月時点のヒアリングでは、政策金融公庫、市中銀行、振興資金などコロナ対策での無利子や、低金利等の借り入れを検討している YMCA が 18YMCA 約 16 億円となっており、今後の状況では倍増する可能性があります。ウエルネス、専門学校の日本語等(留学生が半分)で、そのダメージが大きいですが、加えて極めて困難なのは、ホテル・野外教育研修センターです。在日韓国 YMCA ホテルは、稼働率が 1 割弱、同盟の YMCA 東山荘はすでに年間の4割程度のキャンセルとなっています。全国の YMCA キャンプ場、宿泊施設同様に、休業補償を受けるべく雇用調整基金等の手続き、あらゆる支出削減策を進めています。

5. コロナ危機でも、事業収入の 40%近くを支えるチャイルドケア、高齢者・福祉、公益協働事業

コロナ危機にありながら、保育園・こども園、学童保育、発達障がい児の放課後デイ、高齢者事業などが継続されています。医療関係者、行政、企業など社会のインフラを支える保護者のお子さんの保育、要支援者等を支える活動が継続され、その収入が全 YMCA の収入の3分の1(約 100 億円)を超えています。地域コミュニティに密着した活動の継続は、厳しい中でも地域社会にポジティブネットの灯を高く掲げています。これらの事業にさらに YMCA の全人教育を通しての伴走プログラムなど付加価値をさらに強めていくことが重要となっています。また、指定管理事業などで、児童館、コミュニティセンター、公立野外教育施設・体育館、学校の運営を担う行政との公益協働の事業の収入なども下支えしています。自主事業などの減額の恐れもあるので油断できませんが、これらの事業比率が高い YMCA が比較的安定しているのが現時点の状況です。これらの事業比率を高める YMCA は、地域への働きを広め、安定運営につながるといえます。

6. 『はなれていても つながっている』さらなる新たなつながりの構築を目指して

全国の YMCA で多様な取り組みが広がっています。幼稚園等では、家庭にこもっている親子のために公園に出向いて、お子さんを一時預かりし、家で退屈しないように教材を作成して渡し、連絡アプリで子育てをサポートするニュースを配信したり、元気になる作文募集コンテストをワイズメンズクラブと共催したり、ZOOM で双方向の野外例会を行ったりする YMCA もありました。また子ども向けのオンラインコンサートを全国の YMCA チャイルドケア事業に配信し、「はなれていてもつながっている」取

り組みが全国で行われています。大阪 YMCA のサッカークラブのメンバーは医療従事者への感謝の思いをサッカーボールでリレーする動画を作成し SNS で発進したところテレビニュースで取り上げられました。またイタリア大使館もプロのテノール歌手も賛同し、大使館で心に響く歌声とメッセージを寄せてくださっています。

会員や地域の方々と双方向のつながりを作るべく、ウェブでのラジオ体操なども始まり、東京、大阪のインターナショナルスクールはオンライン事業を継続し、海外から帰国できない学生もオンラインによってつながっています。休館が続く中、さらなる双方向や、オンラインでの事業再開などの取り組みが全国の事業協同などで始まっています。オンライン化のプラットフォームやコンテンツの共同開発も今後の課題として考えていきたいと思えます。さらに、子どもや会員家族の孤立を防ぐよう、手紙やはがき、往復はがきなどを使ってリーダーの直筆でのメッセージの交換など心が通いつながりを深めることを全国で展開しようとしています。

留学生などは、国を離れバイトも学ぶ機会もなく、孤立視状況もあり、北九州 YMCA のレイパーソンにより食料配布を発案し、それを聞いた広島でもお米配布、その取り組みを日本 YMCA 同盟がつないでコストコから全国 2000 名にお米 10 トンが配布されることになりました。目の前にいる留学生、ユースリーダー会員に寄り添い、伴走することが様々な取り組みに広がっています。これから、一時的に海外からの日本渡航は止まっても、再び外国からの流れは続く可能性が高いです。内なる国際化の視点で留学生や外国につながる方々の支援を、今こそ知恵を絞り、新しいつながりを構築していきましょう。

私たちの関係性を今後とも継続し蓄積していくことは、地域社会の「伴走プログラム」として、今まで以上に社会に必要なものとなっていくのではないのでしょうか。私たち自身の健康が守られることを第一にしつつ、未来に目を向けた希望の灯を見続けていくことが、次第に私たち自身の元気を取り戻す糧ともなることを心の糧としていきます。全国のワイズメンズクラブの皆様とご家族、周辺社会の皆様とともに「そっと寄り添いながら伴走する社会」、これこそが私たちが考えているポジティブネットのある豊かな社会かもしれません。毎日、緊張感が感じられますが、皆様にはご健勝であることをお祈りしております。

現在、全国の YMCA では多くの施設が休館をしております。この原稿が発信されている時期に、少しでも改善されていることを祈りつつ書かせていただきます。

そのような中で、子どもたちの命を守り、働く家族を支える役割を持つ YMCA の施設、事業が多くあります。例えば、学童保育であったり、チャイルドケア施設、福祉事業などの活動は継続されています。しかしながら、そのような場所にも多くのリスクが迫っていることも感じております。

私たちは今何ができるのか。これは私たちすべてに与えられた課題であります。私たちの YMCA では、「離れていても、つながっている」を合言葉として、全国の仲間やワイズメンズクラブの皆さんのことを覚え、日々の生活の中で祈ることから始めています。

そして、Web で Zoom を活用した共同の祈りの会を始めました。パソコン画面ではありますが、500 名の方たちとつながる機会を創っています。顔の見える関係が離れていても創り出せる。それは、アフターコロナの時に、新しい社会が到来する前触れなのかもしれません。私たちの新しい関係性の中でも、YMCA とワイズメンズクラブが共に歩む協働体として前進できることを願ってやみません。

つぎの 5 月 8 日(金)は「ユースのための共同の祈り」、22 日(金)はワイズと会員のための共同の祈りを 18:00～行います。多くの皆様のご参加をお願いいたします。健やかな毎日を送らせてますことをお祈りしております。

<第 23 回西日本区大会 by びわ湖 縁の地>



区大会&特別講演会場：びわ湖ホール



懇親会場：琵琶湖ホテル



びわ湖の夕暮れ（噴水に照明）



外輪船：ミシガン・ショーボート



びわ湖テラス（比良山）



白鬚神社



明智光秀の居城：坂本城跡



瀬田の唐橋



栗津の晴嵐

理事懇談会情報

共に語る会（理事懇談会）の開催実績

2019年6月16日 京都部、7月15日 瀬戸山陰部、27日 中西部、8月3日 びわこ部、
8月24日 西中国部、9月11日 中部①（名古屋YMCA）、21日 九州部、28日 六甲部、
11月2日 中部②（長土塀青少年交流C）、12月7日 阪和部
2020年2月1・2日 西中国部〈みんなで語ろう会〉、29日 瀬戸山陰部〈将来検討委員会〉

みなさん、本当にお世話になり、
誠にありがとうございました。

次回お会いできるのを楽しみにしています！

2019-2020 理事事務局スタッフ一同

